

平成30年度 第1回 南海医療センター地域協議会 議事概要

【日時】平成30年10月11日（木） 14時～15時

【場所】南海医療センター 管理棟3階 大会議室

- 【議題】
1. 新任委員の紹介
 2. 佐伯市における医療の現状と課題
 3. 地域連携室からのお知らせ
 4. 災害拠点病院としての活動
 5. 新病院建設進捗状況報告

【出席者】

（外部委員）

行政代表者	大分県南部保健所			
	健康安全企画課長補佐（総括）	那須 祐介	様	
行政代表者	佐伯市福祉保健部健康増進課長	松下 裕安	様	
医師会代表者	一般社団法人佐伯市医師会長	島村 康一郎	様	
病院利用者代表		山中 琢磨	様	
		計4名		

（南海医療センター）

院長	森本 章生	
看護部長	告吉 ゆかり	
事務部長	神崎 啓慈	
地域連携室長	山田 淳子	
主任医療社会事業専門員	古木 和美	計5名

【概要】 議題2「佐伯市における医療の現状と課題」について

- ・平成30年8月1日付で、南海医療センターに麻酔科常勤医が着任したことは、佐伯市民として大変安心できること。県内における他のへき地拠点病院も医師確保が厳しい状況であると聞いているが、引き続き医師確保に尽力し、安心安全な地域医療を整えて欲しい。佐伯市としても協力体制を整えて頂きた

い。

- ・医師の確保について、南海医療センターでは大分大学医学部５年生の地域医療実習や高校生のＡＯ入試によるへき地医療体験実習等を積極的に受け入れて、佐伯市の医療事情を知ってもらう機会を設けている。

実習は当院だけではなく、地域全体で指導をお願いしているもので、学生実習時の印象は非常に大切だ。

地域医療に対する熱意と魅力を引き続き伝えていくので、佐伯市全体で将来の医師確保にご協力頂きたい。

- ・大分大学医学部では専門医取得の為、研修を積んでいる３年目～４年目の若手医師を地域医療に従事させようとする計画がある。短期間であったとしても是非活用しながら、医師確保の一助としていきたい。
 - ・佐伯市医師会としては、各病院、診療所単位ではなく、県南医療圏での連携を取り、限られた医療資源を十分に活用できる体制を整えていくことが急務であると考えている。
 - ・佐伯市健康増進課では地域医療推進係を新設し、毎月大分県に赴き、地域医療の現状を報告し、医師確保に尽力している。南海医療センターでは大分大学医学部からの医師派遣が主であるがＪＣＨＯ組織内での医師異動等は可能なのか。
- ＪＣＨＯ組織内の他病院においても、それぞれの地域での大学医局からの派遣で成り立っている。就職している医師は少数であり、どの病院も医師確保に苦慮しているのが現状だ。

【概要】 議題３「地域連携室からのお知らせ」について

- ・毎年開催されている病診連携会議は、南海医療センター・佐伯市医師会双方にとって、顔を合わせることでできる数少ない貴重な時間なので、参加している先生方においては積極的にコミュニケーションをとって顔の見える関係を作って頂くことを切望する。

【概要】 議題４「災害拠点病院としての活動」について

- ・平成３０年８月４日（土）「大規模地震時医療活動訓練」に参加し、他県ＤＭＡＴ部隊の受入を行うなど、有事の際における対応訓練を実施した。
- ・平成３０年９月２０日～２４日にかけて日本に上陸した台風２４号については、診療体制を継続する為に災害本部を立ち上げて対応した。
新病院では、１階部分の高さを上げており、水害に十分対応できる。

【概要】 議題 5 「新病院建設進捗状況」について

- ・平成30年10月～免震装置の取り付けを実施している。
平成31年10月～新病院完成
平成32年 1月～開院予定で工事は順調に進んでいる。

【概要】「その他委員からのご意見・要望」

- ・南部医療圏での新型インフルエンザ発生時の受入訓練を計画しており、年末頃までに訓練内容の詳細を整えたいので、是非協力をお願いしたい。
- ・佐伯准看護学院では地域に根差す看護職を育成しており、南海医療センターには多数の実習生をご指導頂いている。正看護師と同等のレベルを求められると実習を継続するのが難しくなる学生も中にはいる。
事情を汲んで頂き、実習内容を検討頂けるようお願いしたい。

-以上-